

平成28年第3回(9月)掛川市議会定例会
一般質問発言順序

- | | | |
|----|-----|-------|
| 1 | 12番 | 山崎恒男君 |
| 2 | 9番 | 二村禮一君 |
| 3 | 15番 | 榛葉正樹君 |
| 4 | 6番 | 野口安男君 |
| 5 | 17番 | 鷺山喜久君 |
| 6 | 2番 | 雪山敏行君 |
| 7 | 11番 | 渡邊久次君 |
| 8 | 7番 | 小沼秀朗君 |
| 9 | 5番 | 窪野愛子君 |
| 10 | 3番 | 大場雄三君 |
| 11 | 14番 | 山本行男君 |
| 12 | 10番 | 山本裕三君 |

平成28年第3回(9月)掛川市議会定例会
一般質問発言順序(予定)

9/13 AM 12番 山崎恒男君

9番 二村禮一君

PM 15番 榛葉正樹君

6番 野口安男君

17番 鷺山喜久君

9/14 AM 2番 雪山敏行君

11番 渡邊久次君

PM 7番 小沼秀朗君

5番 窪野愛子君

3番 大場雄三君

9/15 AM 14番 山本行男君

10番 山本裕三君

一般質問通告要旨

議席番号	12	氏名	山崎恒男	質問の方式 (<input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括)
------	----	----	------	---

1 「義務教育学校」小中一貫教育の推進について (答弁：教育長)

国は、「一貫教育は学習面や生活面で成果が出ている」として、制度の周知を図るため指導用の資料を作成することを予定している。本市も中学校学園化構想第2ステージ検討委員会を設置し研究に着手したことは、時宜を得た措置であると思っている。この検討委員会において十分に研究・検討されることを望むとともに、義務教育学校での小中一貫教育を推進する立場から、次の4点について伺う。

- (1) 平成28年度義務教育学校設置状況は、13都道府県で公立22校である。この現状について、どのように思われるか見解を伺う
- (2) 義務教育学校の施設分離型では、一貫教育の目的を充分果たせるのか、疑問に思うが見解を伺う
- (3) 義務教育学校の一体型設置の場合、財政負担が膨大になることが予想されるが、国の助成措置の特例は期待できるのか伺う
- (4) 検討委員会の進捗状況及び検討結果後の推進化に向けたスケジュールについて伺う

2 市長の2期目の実績と今後について (答弁：市長)

市長2期目の最終年にあたる本年の施政方針では、「協働のまちづくり開花の年」と位置づけ、他の自治体にはない「報徳の精神」と「生涯学習の理念」が根付いた高い市民力を根幹とした「協働のまちづくり」を進め、我が国が過去において経験しなかった、少子高齢化、人口減少の問題を始めとし、諸課題に対処しつつ市政発展のため「第2次掛川市総合計画」をスタートさせた。

市長の任期最終年にスタートした総合計画を将来に向けて確かなものとすべく、今後引き続き11万7千人の市民の負託に応えるために、次の4点について市長に伺う。

- (1) 松井市政2期8年をどのように総括されるのか伺う
- (2) 立地的、都市的、自然に恵まれた本市の条件を有効に活用し、今後さらに高次都市機能の集積を図る新たな施策が必要と思うが、見解を伺う
- (3) 協働によるまちづくりを掲げ、各地区に地区まちづくり協議会が設立されたが、今後円滑に事業推進が図られるか見解を伺う

(4) 松井市政を継続推進するため、市長 3 期目の決意について伺う

一 般 質 問 通 告 要 旨

議席番号	9	氏名	二 村 禮 一	質問の方式 (一問一答・一括)
------	---	----	---------	-----------------

1 安心して暮らせる地域完結型医療の体制づくりについて (答弁：市長)

「誰もが住みたくなるまち」の構築には、掛川市民すべての人が、最期まで健康で可能な限り住み慣れた家庭や地域で安心して暮らすことができる地域医療の確保と連携強化による医療体制づくりが不可欠である。

そのためには、中東遠総合医療センターと地域の開業医などの医療機関が連携、役割を分担し、市民が切れ目のない医療を受けられる診療体制を構築しなくてはならないと考える。

しかし、開業医の高齢化など、将来的に地域によっては医療機関の減少も危惧され、地域から期待の大きい在宅医療提供体制の充実が実現困難な状況になってくると思われる。

- (1) 本年3月に掛川市議会が政策提言した「掛川健康長寿に向けての提言」の実現に向けた、取り組みについて伺う
- (2) 通院が困難な患者が、家庭や地域で療養することができる訪問診療や訪問看護による地域在宅医療推進の取り組みについて伺う
- (3) 開業医の高齢化など、将来的には地域の診療所の減少も危惧される状況について、「近所にいていつでも診てくれる」かかりつけ医の確保への取り組みについて伺う

2 海岸防災林（掛川潮騒の杜）事業計画について (答弁：市長)

2015年の国勢調査で沿岸地域の人口流出や企業移転が浮き彫りとなった。潮騒の杜の早期完成に向けて事業を推進し、沿岸の住民、企業の安全安心な生活を確保し、人口減少に歯止めをかけなくてはならない。

- (1) 海岸防災林強化学業の進捗状況について伺う
- (2) 盛土材をどのように確保をするのか伺う
- (3) 中間目標として、平成31年度末までに40%の進捗率を計画しているが、順調に推移しているか伺う
- (4) 「掛川潮騒の杜」完成後の津波浸水域の防災マップ作成について伺う

一般質問通告要旨

議席番号	15	氏名	榛葉正樹	質問の方式	(一問一答)・一括
------	----	----	------	-------	-----------

1 若者の投票率向上について (答弁：市長)

昨年6月、改正公職選挙法が成立し、選挙権年齢が20歳以上から18歳以上に引き下げられた。今年の参議院選挙から適用され、掛川市では18歳及び19歳の2,107人が新たに有権者になった。若者の政治参加に選挙管理委員会や学校の取り組みが進んでいるが新たな展開を伺う。

- (1) 今年行われた参議院選挙での掛川市の18歳、19歳の投票結果について所見を伺う
- (2) 期日前投票所を駅や商業施設等に開設する動きが県内でも広がっているが、検討する考えはあるか伺う
- (3) 選挙に行った人に、商店などがさまざまなサービスをすることで投票を呼びかける「選挙割」等が盛んになっている。18歳、19歳向けのサービスを行っている商店もあり、地域によってユニークな取り組みが多くなっている。掛川市も取り組む計画はあるのか伺う
- (4) 高校生の投票を促し、投票率を向上させるためには、主権者としての意識を持ってもらう必要がある。そこで、投票立会人や選挙事務従事者に高校生を起用する考えはあるか伺う
- (5) 公職選挙法の一部改正により、投票所に入ることができる子どもの範囲が改正前の幼児から、児童・生徒その他の18歳未満の者に拡大された。選挙人が子どもを投票所に連れて行くことにより、家庭で選挙や投票に関することが話題になり、将来の有権者への有効な選挙啓発につながるものと考えられる。子どもの政治への関心を高めるには、親に対する教育も必要と考えるが見解を伺う

2 市長の2期8年目の自己評価、今後について (答弁：市長)

平成21年4月、市長に就任してから2期8年が経過しようとしている。

就任以来、限られた財源の中で、市民の安全・安心を第一に、医療・介護・福祉・教育の充実と災害に強いまちづくりを進めるとともに、恵まれた交通インフラを生かして産業力の強化を推進し、「元気で活力に満ち、希望とぬくもりに溢れ、誰もが住みたくなるまち掛川」の実現に向けて、着実かつ堅実な事業運営を進めてきたと感じている。市長任期も残り約半年となり総括の時期となったが、これまでの実績や評価、今後の課題について伺う。

- (1) 第2期61項目の市長マニフェストでは、「A：達成・完了24.6%」「B：実施中57.4%」「C：検討中16.4%」「D：未着手1.6%」（平成27年度末）という結果に対して、どのような評価をしているのか伺う
- (2) 市民意識調査報告書では、「とても住みやすい・どちらかといえば住みやすい」が80.7%で「とても住みにくい・どちらかといえば住みにくい」の18.7%を大きく上回るが、年齢別でみると20歳未満、20歳代が他の年齢より低い結果となっている。また、優先度ランキングでは、防災強化や子育て関連が上位を占めている。このような結果から今後の展開を伺う
- (3) 「希望がみえるまち、誰もが住みたくなるまちづくり」を実現するためにも引き続き任に就くべきと考えるが、その決意を伺う

一般質問通告要旨

議席番号	6	氏名	野口安男	質問の方式（一問一答・ <input checked="" type="checkbox"/> 一括）
------	---	----	------	---

1 掛川西環状線道路整備計画について （答弁：市長）

平成25年の一般質問の答弁で市長は、「掛川市にとって西環状線がいかに必要かを県に何度となくお願いをしている」と発言している。また、当時の部長からは、「都市計画決定するために調査をしていく」と答弁があり、その後の方向性が気になっているところである。国や県の考え方とともに、掛川市として一層の推進を図っていくことが大切であると考え、市長はどのような努力をし、実現しようと考えているのか伺う。

- (1) 国土交通省は、「インフラのストック効果」を生産拡大効果と厚生効果の2つに分けている。厚生効果における生活の質の向上の中で、「災害安全性の向上」があげられている。これに西環状線があてはまると考えるが、見解を伺う
- (2) 「中部版くしの歯作戦」（平成27年5月29日改訂版）に西環状線が明確化されていない。これについて、市長は今後どのような方策をとっていくのか伺う
- (3) 「掛川市主要事業調書」によると、掛川西環状線については、平成27年に実現可能性に向けた検討・見直しをし、県や近隣市町との道路勉強会を開催するとあるが、その成果と課題について伺う
- (4) 今年度は、「都市計画マスタープランの改定」とあるが、現状と課題について伺う
- (5) 「内陸フロンティア」の農地整備に寺島・幡鎌地区が関係している。西環状線と関係性をもたせて、その整備の際の残土などを西環状線整備計画に有効活用することができないか伺う

2 小・中学生の「体力・運動能力、運動習慣等調査」結果について （答弁：教育長）

先般、テレビ等の情報によると、静岡県は、全国体力テストで小学校5年生の「ボール投げ」において、平成26年度と平成27年度で、全国順位が2年連続最下位という報道があった。しかし、掛川市の結果については、小学校5年生及び中学校2年生の男女とも全国平均を上回っていることがわかった。また、「運動能力の6種目全て」が2年連続全国平均を上回っていた。そこで、この結果は何が良かったと考えるか伺う。

- (1) 体育・保健体育の授業で、小学校5年生及び中学校2年生では、「ボールを

使った運動」はどんな内容を計画し実践しているか伺う

(2) 運動能力を高めるには、日常的に運動をすることが大切と考えるが、意識調査では、日常的に運動している子は、どの程度いたのか伺う

(3) 小学校5年生では、スポーツクラブに所属している子は、どの程度いるのか伺う

(4) 中学校2年生では、運動部活動に所属している子は、どの程度いるのか伺う

(5) 2019年度にラグビーワールドカップが、静岡スタジアムエコパで開催されるが、タグラグビーを教材とした体育授業をしている市内の小・中学校はどの程度あるのか伺う

(6) 今後、筋力向上や柔軟性アップのために、どのような取り組みを推奨していくか伺う

一般質問通告要旨

議席番号	17	氏名	鷲山喜久	質問の方式 (一問一答・一括)
------	----	----	------	-----------------

1 学童保育について (答弁：市長、教育長)

学童保育は、子どもたちにとって「安全で安心して生活できる居場所」となることと考えている。同時に保育能力の向上が求められている。そこで以下の見解を伺う。

- (1) 西山口小学校の学童保育は、分室として家庭科室を使用しているが、家庭科クラブや掛川市健康づくり食生活推進協議会などが使用する時は、地域生涯学習センターや東部ふくしあを使用し学童保育を行っている。この状況をいつまで続けるのか伺う
- (2) 学童保育専用室を新築する考えはないか伺う
- (3) 有資格者を含め常勤、非常勤の支援員の保育能力を高めるための研修、研究はどのようにされているのか伺う
- (4) 現場は、若い人の支援員を求めているが、その声に応えているか伺う
- (5) 文部科学省の「放課後子供教室」と厚生労働省の「学童保育」を連携させた一体型を中心とした考え方で推進するのか伺う
- (6) 「一体型」で推進するメリット、デメリットを伺う

2 宮脇地区の宅地造成にともなう用排水について (答弁：市長)

宮脇地区の用排水の問題については、平成25年11月定例会、平成28年度協働によるまちづくり西山口地区集会地区別テーマ、自由討議で市長は発言されているが、改めて伺う。

- (1) 安全安心のまちづくりを実現するためにも、排水対策は最重点課題としているが、具体的な排水対策を伺う
- (2) 宅地化が進み、豪雨時に農業用水路があふれ、低いところは道路が冠水するので対策を急ぐ必要がある。どのように事業化するのか伺う
- (3) 道路幅員、水路等の計画を地権者、不動産業者に示し「協力」を求めることが必要と思うがいかがか
- (4) 「協働によるまちづくり計画」、「生涯学習まちづくり土地条例」で良好な排水ができるよう、開発業者に社会的責任を果たすように規制することはできないか伺う

3 「掛川あそび保育園」工事について

(答弁：市長)

現場には、造成される運動場と駐車場の間に大井川用水路が南北に通っている。

平成28年4月15日の地元説明会では、用水路は開渠の説明であったが、平成28年5月30日に開発変更届がされており、暗渠に変更され、現場は用水路に蓋をし土をかぶせて造成されている。そこで伺う。

- (1) 市は変更届を受理後、水田耕作者、地元関係者に意見を聞かなかったのか伺う
- (2) 地元からは、開渠でないと詰まった時や水路掃除の時など困るとの意見が多数ある。今後実施される事業が業者主導で行われてしまうのでは、協働のまちづくりに逆行しないか伺う

一般質問通告要旨

議席番号	2	氏名	雪山敏行	質問の方式	(一問一答)・一括
------	---	----	------	-------	-----------

1 地方創生交付金の活用と課題について (答弁：市長)

まち・ひと・しごと創生法の成立を契機に、掛川市においても平成27年度に地域創生総合戦略を策定した。また、これを抱合する戦略書として、第2次総合計画を策定し、国の地方創生交付金などを活用して、掛川茶輸出戦略策定や中東遠タスクフォースセンター設立事業など11事業を推進している。

しかし、これまで採択された事業は単年度事業であり、施策によっては継続的に実施しなければ事業効果が発揮できない。そのような事業の今後の対応も課題である。各省庁が予算化している地方創生関連予算の獲得や地域再生法の一部改正により複数年度にわたる事業の採択、企業版ふるさと納税など新たな内容にどのように対応していくのかなどの課題もある。

地方創生は地方自治体の今後のあり方を問われる試金石であり、第2次掛川市総合計画、地域創生総合戦略の実現に向けて覚悟をもって推進する必要がある。

以上の視点から以下の5点について所見を伺う。

- (1) これまで実施または実施中の地方創生交付金事業において、自立自走ができると分析しているのか。できないと分析していれば、平成29年度予算でどのように取り組むのか伺う
- (2) 平成28年度の地方創生交付金対象事業として、どのような施策を申請するのか伺う
- (3) 地域再生法の一部改正により、複数年度にわたる企業版ふるさと納税等があるが、これにどのように取り組むのか伺う
- (4) 様々な国の支援制度において規制や採択基準等があり、現場が望む事業展開ができないもの(隘路事業)があると考えるが、制度の不完全さを指摘し改善を求める考えはあるのか伺う
- (5) 各省庁の地方創生関連予算の獲得に向けて、どのように取り組むのか伺う

2 医・福・食・農連携による健康都市づくりについて (答弁：市長)

近年、医療分野や福祉分野と連携した、食品分野や農業分野の取り組みが盛んになっており、食や農の新たな可能性が注目されている。

このことは、昨年6月に閣議決定された「日本再興戦略においても医・福・食・農連携等により新たな国内市場を開拓」と位置づけられ、平成28年度の国予算においても支援制度や事例が紹介されている。

甘草など薬用作物の国産化、高齢者にとって食べやすい介護食品の開発、機能性の高い食品の開発、障がい者の就労支援など社会福祉法人の農業生産活動などの事例も示されている。また、緑茶の健康増進効果を解明する掛川スタディも紹介されている。

これらの事例を見ると、掛川市においても遊休農地を活用した薬用作物の栽培、介護事業者と食品製造業との連携による飲み込む力に応じた介護食品の開発、福祉目的の市民農園など、総合計画の戦略目標「健やかな暮らしづくり」、言い換えれば、健康都市を実現するうえで推進すべき施策であると考えている。

そこで次の3点について伺う。

- (1) 遊休農地を活用した甘草など、薬用作物栽培及び農作業の持つ癒し効果を活用したりハビリ農園の開設など、医療と農業連携について、医療機関や研究機関、農業者からなる調査検討組織を立ち上げ研究する必要があると考えるが所見を伺う
- (2) 高齢者や要介護者が食べやすい食品の開発や茶、葛、甘藷など地域農産物を活用した機能性食品の開発は農業の6次産業化の促進になると考えるが、これにどのように取り組むのか伺う
- (3) 農業従事者が減少する中、農業がもつセラピー効果や就労の場としての機能を生かした高齢者の農業支援や障がい者の就労支援など、農業と福祉を結びつけるシステムの構築が必要と考えるが、これにどのように取り組むのか伺う

一般質問通告要旨

議席番号	11	氏名	渡 邊 久 次	質問の方式 (一問一答・一括)
------	----	----	---------	-----------------

1 耕作放棄地の解消と地域の農業振興について (答弁：市長)

どの地域でも、荒れた茶園や耕作放棄された田畑が目につくようになり、農業従事者の高齢化や農業後継者の不足も深刻な問題となりつつある。どのようにして担い手を育成し、耕作放棄地を解消していくのかが、今後の地域の農業振興にとって重要な課題となっている。「高齢化したので農地の管理が大変になっている」、「耕作してくれるところがあったら農地を委託したい」など、地域の農業が抱えている問題を改善するために、どのような施策を講じていくのかを伺う。

- (1) 市内の耕作放棄地について、区域別（旧市町）の現状を伺う
- (2) 人・農地プランでは、中間管理機構による土地の集積化と受け手となる農業者への貸し付けを進めようとしているが、耕作放棄地の解消につながる見通しはあるのか伺う
- (3) 農業法人等による大規模な米作りが進んできている中で、個人や集落営農による小規模な米作りを継続していくことが大変困難となってきた。小規模の経営体にどのような支援策を講じていくのか伺う
- (4) 「耕作放棄地を活かして地域を元気にしていこう！」という再生利用対策が農林水産省から出されているが、掛川市としての実施状況を伺う
- (5) 地域にあった農作物の栽培を促進し、地域の農業振興を図るためには、暗渠排水や畑灌等の基盤整備が必要であるが、基盤整備のための施策について伺う

2 教職員の多忙な勤務実態の改善について (答弁：教育長)

小中学校の教職員の勤務実態は、毎日長時間の多忙な勤務を余儀なくされている。平成25年度の勤務実態調査では、1ヶ月平均の時間外勤務時間数が、小学校は38時間、中学校は52時間であり、100時間を超える超多忙な教職員が、小学校は0.1%、中学校は4.8%であった。多忙化の原因を究明し、教職員が本来の職務を全うできるような教育環境を作っていくことが、子どもたちが輝き、生き生きと学び成長できることにつながる。

- (1) 平成27年度の勤務実態調査では、時間外勤務時間数などの勤務実態は改善されてきているのかを伺う
- (2) 教職員が休日出勤したり、時間外勤務をしなければならない多忙化の原因について伺う

- (3) 多忙化を解消するために、教職員の配置や「学校運営の見直し」をどのように進めていくのかを伺う
- (4) 現在、健康を害して長期休業中となっている教職員の状況について伺う
- (5) 講師の不足が全県的にも問題となっているが、掛川市内では、代替教師の未配置という状況にはなっていないかを伺う

一般質問通告要旨

議席番号	7	氏名	小沼秀朗	質問の方式	(一問一答)・一括
------	---	----	------	-------	-----------

1 水道事業について (答弁：市長)

古くより水不足であった掛川市も多くの課題を乗り越え、現在の豊富な水道水供給ができています。魅力あるまちづくりの一つとして、今後の生活に欠かせない水の問題について以下を伺う。

- (1) 平成26年4月4日に掛川市議会が政策提言した「水道事業に係る提言書」に対する現在の進捗状況を伺う
- (2) 県内における本市水道料金との比較と、料金の今後の動向を伺う
- (3) 水道設備の耐震化、老朽化のための今後の更新事業に対し、国の補助制度を活用できる策を伺う
- (4) 水道事業会計が厳しい状況にあるなか、広域化や事業の合理化など経費削減の促進をいかに考えるのか伺う
- (5) 静岡県水道整備基本構想ならびに大井川地域広域的水道整備計画と、現在の状況との整合性を伺う
- (6) リニア中央新幹線工事による大井川流量減少の想定を伺う
- (7) リニア中央新幹線工事により万が一、大井川流量減少が生じた場合の対策をいかに考えているのか伺う

2 掛川市の転入人口増加策について (答弁：市長)

全国で進む少子高齢化、人口減に対し、掛川市では転入人口をいかに増加させていくのか、今後の打開策を伺う。

- (1) 平成28年度、平成29年度における転入人口増加策として、掛川市の具体的な取り組みを伺う
- (2) 総務省は2017年、都市部の学生や若手社員が長期休暇を利用して地方で働く「ふるさとワーキングホリデー」を立ち上げ、人口減が加速する地方への移住を促す計画であるが、これに対する掛川市の取り組み状況を伺う
- (3) 総務省の「地域おこし協力隊」に対する掛川市の取り組み状況を伺う
- (4) 平成27年6月に公布された法律改正により、平成28年6月1日付けで21の市町が農林水産大臣から指定市町村として指定を受け、都道府県に代わり農地転用許可及び農振法に基づく開発許可を行うことができるようになったが、移住を促進するために、掛川市の権限委譲に対する取り組み状況を伺う
- (5) 国から地方へ様々な制度が譲渡され、今後、地方分権が進んでいく傾向にあ

る。他にも地域経済好循環推進プロジェクトなど、様々なプロジェクトにより、地域活性化の可能性が国から示されているが、事業計画の段階から市民と共に考え、市民の力を活用していく考えはないか伺う

一 般 質 問 通 告 要 旨

議席番号	5	氏名	窪 野 愛 子	質問の方式 (一問一答・一括)
------	---	----	---------	-----------------

1 「運営から経営」の視点に立った指定管理者制度の運用について

(答弁：市長)

国は平成15年6月、地方自治法の一部を改正し、公の施設の管理について指定管理者制度を導入し、その適正かつ効率的な運営を積極的に図ることを進めてきた。

本市においては平成28年4月1日現在、42施設に指定管理者制度が導入されている。その中で、本年度指定期間が終了となる施設は15ある。今後の対応についてはどのように考えているのか、とりわけ管理運営経費の大きい施設については、社会情勢や市民ニーズを踏まえた新たな発想での取り組みが必要ではないか。

- (1) 本年度指定期間終了となる施設の指定管理者制度導入後の効果について伺う
- (2) 本年度指定期間終了となる施設への今後の対応について伺う
- (3) 管理運営経費が大きい施設について、抜本的な見直しを検討するのか伺う
- (4) 指定管理施設の管理運営状況評価には、第三者による評価機関が必要と思うが見解を伺う

2 発達に課題をもつ児童への切れ目のない支援体制について

(答弁：市長、教育長)

自閉症やアスペルガー症候群等「発達障害」の人を支える「発達障害者支援法」が、本年5月に10年ぶりに改正された。この改正では、障がいの早期発見や支援について、国や自治体の取り組みを強化し、障がい者の社会参加を妨げ、差別を生む制度や慣行などの「社会的障壁」の排除を目指していくとしている。

2012年の文部科学省調査では、全国の通常学級に通う小中学生の6.5%が発達障がいの可能性があるとして推計されている。本市においても支援を要する児童は、年々増加傾向である。支援を必要とする児童と家族の目線に立った相談体制の確立、切れ目のない支援体制の充実が急務である。

- (1) 特別支援教育掛川モデルの取り組みの成果と課題について伺う
- (2) 発達障害者支援法の改正を踏まえた本市の取り組みについて伺う
- (3) 地域における発達障がいへの理解を深める取り組みが必要と思うが見解を

伺う

(4) 切れ目のない支援を図るために既存の児童福祉等関連施設の有効活用について伺う

一般質問通告要旨

議席番号	3	氏名	大場雄三	質問の方式	(一問一答)・一括
------	---	----	------	-------	-----------

1 いこいの広場管理計画について (答弁：教育長)

いこいの広場は、市民の健康増進、一人一スポーツ一健康法の奨励を目的に設置された総合スポーツ施設である。しかしながら、設置から40年が経過し、いたる箇所において老朽化が目につくようになってきている。いこいの広場は、市民の健康づくりの場としてだけでなく、対外試合や合宿地として市外からの利用者も多数あることから、より一層の利用促進を図る上でも、計画的な整備改修が必要と考えられるため、以下の点について伺う。

- (1) 掛川球場について、スコアボードや観客席外壁等に劣化が見受けられるが、補修計画を立てる考えはあるか伺う
- (2) 掛川球場への照明設備設置を目的とした募金活動を行っているが、現在の状況と今後の見通しについて伺う
- (3) テニスコートについては大変利用率も高く、市民の健康増進に役立っていると思われる。しかし、オムニコート（砂入り人工芝）はその性質上、定期的なメンテナンスが必要であるとともに、照明設備も更新の必要性がある。今後のテニスコートの維持管理計画について伺う
- (4) プール跡地について、2003年にプール閉鎖後は一部を駐車場として使用しているが、この場所を再整備して、遊具のある公園やスケートボードパークなどを設置し、小さな子供から大人まで気軽に運動に親しめる施設として再整備する考えはないか伺う

2 道路整備と維持管理について (答弁：市長)

掛川市における道路インフラの整備は、市民の安全を確保するだけでなく、移動の時間短縮や快適性という面においても必要不可欠であると考えている。今後交流人口の増加も考えられることから、掛川市の道路整備に関して、以下の点について伺う。

- (1) 交差点の設置については安全対策が必要であることから、重大事故の発生確率が少ないとされるラウンドアバウト方式の交差点設置を提案するが、所見を伺う
- (2) 市道桜木中横断線の開通により、県道掛川山梨線の交通量の増加が見込まれるが、歩道の未設置部分がある。安全確保のため歩道を設置することが望まし

いと考えるが、所見を伺う

- (3) 市内各所において道路舗装補修をしても、短期間で破損するケースが見受けられる。道路の安全性や快適性を維持するうえでも、交通量に応じた舗装構造に改善すべきと考えるが、所見を伺う

一 般 質 問 通 告 要 旨

議席番号	14	氏名	山 本 行 男	質問の方式 (一問一答・一括)
------	----	----	---------	-----------------

1 下水道計画の見直しについて

(答弁：市長)

平成27年度の一般・特別・企業会計歳入歳出決算書の審査意見書の中で、監査委員から公共下水道事業について、「平成28年度実施の『下水道計画』の見直しにおいては、財政負担の平準化を念頭に計画策定されたい。今後とも、構築物の耐震性の検証、将来にわたる維持管理費の低減策、接続率の向上等に意を払われ、円滑な事業推進に努められるよう期待する。」と述べられている。

少子高齢化が進むなか、市の財政状況も厳しさを増していくと予想される。

下水道の整備を今後どこまで進めていくのか、以下の3点を伺う。

- (1) 現在見直し中の計画内容はどのようなものか伺う
- (2) 今回の見直しで重視していることは何か伺う
- (3) 各汚水処理事業の今後の取り組みについて伺う

一般質問通告要旨

議席番号	10	氏名	山本裕三	質問の方式	(一問一答)・一括
------	----	----	------	-------	-----------

1 地域に愛される学校を目指して

(答弁：教育長)

築50年以上経つ中央小の北校舎、中校舎の改築工事がいよいよ始まった。新校舎には様々なアイデアや掛川市教育の未来や夢が詰まっており、私自身も非常に期待をしている。しかしながら、建設期間中には、児童、先生及び周辺住民の方々に負担や危険が生じる可能性があるとともに、校舎のことだけではなく、グラウンドの防砂対策や浸水対策等の検討も更に必要である。そこで、以下の5点について伺う。

- (1) 防砂ネットの設置計画は、グラウンド東側のみと聞いているが、防砂対策はそれで十分と考えているのか見解を伺う
- (2) 防砂対策として土質改良に取り組んでいく予定とのことだが、詳細を伺う
- (3) 長年にわたり、グラウンドの北側では豪雨の際に、グラウンドから大量の水が流れ込み浸水している現状を把握しているのか伺う
- (4) グラウンド西側傾斜面の草刈りは、地域の皆様が行っている。しかし、地域住民の高齢化に伴い、急斜面での草刈り作業は危険性を増し、続けていくことが困難であると思うが、今後の対応を伺う
- (5) 通学や学校生活及び学校イベント等において、工事が与える影響や課題をどのように捉えているか伺う